

## 受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「インベスコ 世界高利回り債券ファンド <為替ヘッジなし> (毎月決算型) / <為替ヘッジあり> (毎月決算型)」は、このたび、第12期の決算を行いました。

当ファンドは世界の先進国および新興国の公社債等を実質的な主要投資対象とし、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目標として運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

<為替ヘッジなし (毎月決算型)> <為替ヘッジあり (毎月決算型)>

第12期末 (2016年4月15日)		第12期末 (2016年4月15日)	
基準価額	8,323円	基準価額	9,240円
純資産総額	20百万円	純資産総額	11百万円
第7期～第12期		第7期～第12期	
騰落率	△6.7%	騰落率	0.3%
分配金(税込み)合計	500円	分配金(税込み)合計	300円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>  
右記<お問い合わせ先>のホームページにアクセスし、「ファンド一覧」等から運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。



## 交付運用報告書

第7期 (決算日2015年11月16日)

第8期 (決算日2015年12月15日)

第9期 (決算日2016年1月15日)

第10期 (決算日2016年2月15日)

第11期 (決算日2016年3月15日)

第12期 (決算日2016年4月15日)

作成対象期間 (2015年10月16日～2016年4月15日)

## インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階

<お問い合わせ先>

お問い合わせダイヤル: (03)6447-3100

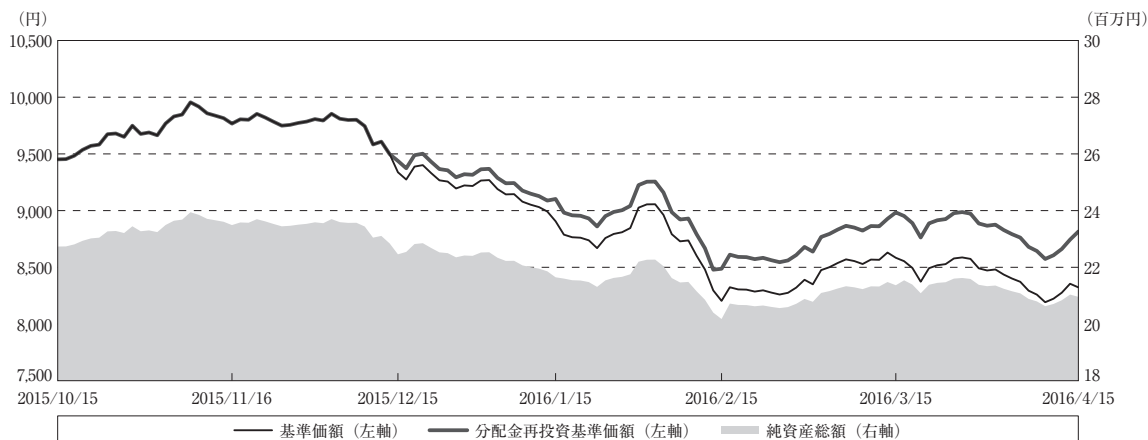
(受付時間: 毎営業日の午前9時から午後5時)

ホームページ <http://www.invesco.co.jp/>

## 運用経過

### 作成期間中の基準価額等の推移

(2015年10月16日～2016年4月15日)



第7期首：9,452円

第12期末：8,323円 (既払分配金 (税込み)：500円)

騰落率：△ 6.7% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首 (2015年10月15日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

### ○基準価額の主な変動要因

#### 【上昇要因】

- 世界のハイ・イールド債券および新興国公社債を実質的な投資対象としているため、トップダウンとボトムアップを融合したアクティブ運用を行った結果、実質的に保有する債券の一部の銘柄の価格が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。
- 実質的に保有する債券からの高水準のインカムゲイン (利息収入) が、基準価額の上昇要因となりました。

#### 【下落要因】

- 世界のハイ・イールド債券および新興国公社債を実質的な投資対象としているため、原油価格の下落、中国の景気減速懸念などを背景に投資家のリスク回避姿勢の強まり、ハイ・イールド債券や新興国公社債のスプレッドが拡大し、債券価格が下落したことが基準価額の下落要因となりました。
- 実質外貨建資産について対円で為替ヘッジを行わなかったため、米ドルが対円で下落したことが基準価額の下落要因となりました。

## 1万口当たりの費用明細

(2015年10月16日～2016年4月15日)

項 目	第7期～第12期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 41	% 0.448	(a) 信託報酬 = 作成期間の平均基準価額 × 信託報酬率
( 投 信 会 社 )	( 2 )	(0.027)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価
( 販 売 会 社 )	(37)	(0.405)	購入後の情報提供、運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
( 受 託 会 社 )	( 1 )	(0.016)	ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	5	0.053	(b) その他費用 = 作成期間のその他費用 ÷ 作成期間の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 4 )	(0.042)	監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
( 印 刷 費 用 )	( 1 )	(0.012)	印刷費用は、目論見書や運用報告書等の法定書類の作成・印刷に要する費用等
合 計	46	0.501	
作成期間の平均基準価額は、9,104円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2011年4月15日～2016年4月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2015年5月1日です。

	2015年5月1日 設定日	2016年4月15日 決算日
基準価額 (円)	10,000	8,323
期間分配金合計(税込み) (円)	—	500
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△11.8
参考指数騰落率 (%)	—	△ 7.9
純資産総額 (百万円)	24	20

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 設定日の基準価額は、設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 参考指数は、合成指数 (JPMorgan EMBI Global Diversified (円換算ベース) 50%、Barclays Capital US High Yield 2% Issuer Cap (円換算ベース) 50%) です。参考指数の詳細は22ページをご参照ください。
- (注) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しているものです。

## 投資環境

(2015年10月16日～2016年4月15日)

ハイ・イールド債券 (Barclays US Corporate High Yield 2% Issuer Capped Bond Index (米ドルベース))	+1.3%
新興国公社債 (J.P. Morgan EMBI Global Diversified (米ドルベース))	+5.1%
米ドル/円 109円74銭 (前作成期末 118円99銭)	

※ハイ・イールド債券および新興国公社債の騰落率は当作成期末時点 (対前作成期末比)、米ドル/円は当作成期末の数値です。

## &lt;債券市場&gt;

当作成期間中、米国10年国債利回りは低下 (債券価格は上昇) しました。2015年12月までは、①株式市場の落ち着き、②ドラギ欧州中央銀行 (ECB) 総裁による追加緩和を示唆する発言、③米経済指標の改善、④米連邦公開市場委員会 (FOMC) における0.25%の利上げなどを背景に、米国10年国債利回りは上昇 (債券価格は下落) しました。その後は中国経済成長減速懸念の再燃や原油価格の下落を背景に市場心理は悪化し、クレジット市場全般に下落基調となりました。リスク回避姿勢が広がる中、「質への逃避」が加速し、米国10年国債利回りは低下しました。2016年2月中旬から①原油価格の反転、②中国の人民元安防衛に対する姿勢が再確認されたこと、③世界的に欧州の銀行債務に関する不安が払しょくされたこと、④良好な米国経済指標が発表されたこと一などから、低下基調だった米国10年国債利回りは安定し、クレジット市場は全般的に上昇しました。

## &lt;為替市場&gt;

当作成期間中、米ドルは対円で下落しました。作成期初は米経済指標の改善や政策金利の引き上げ期待もあり、米ドルは対円で上昇しました。その後は世界的な経済成長懸念、株価の下落、原油価格の下落を背景にリスク回避的な動きが加速、安全資産とされる円が買われたことにより円高/米ドル安に転じました。2016年1月末には日本銀行によるマイナス金利導入もあり円安/米ドル高に反転する時期もありましたが、3月のFOMCにおいて2016年の利上げペースを年4回から年2回に下方修正したことなどを受け、米ドルは再び対円で下落して作成期末を迎えました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2015年10月16日～2016年4月15日)

インベスコ 世界高利回り債券 マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）を高位に組み入れ、世界のハイ・イールド債券および新興国公社債に実質的に投資しました。残余部分はインベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）（以下、マネープール・ファンドといいます。）を組み入れ、安定した収益の確保を図りました。また、実質外貨建資産については、対円で為替ヘッジは行いませんでした。

マザーファンドでは、主としてアイルランド籍外国投資信託インベスコ・グローバル・ハイ・インカム・ファンド クラスC-SD投資信託証券（米ドル建て）に投資を行いました。同外国投資信託では、主として、世界のハイ・イールド債券および新興国公社債に投資を行い、トップダウンとボトムアップを融合したアクティブ運用により、高水準のインカムゲインの確保に加え、キャピタルゲインの獲得を目指しました。具体的には、先進国社債の組入比率を高位としました。信用格付けにおいてはB B格、B B格、B格に幅広く投資しました。国別配分では、米国、ブラジルの組み入れを高位としました。

マネープール・ファンドでは、資産規模などを勘案し、短期金融商品による運用を行いました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2015年10月16日～2016年4月15日)

当作成期の分配金再投資基準価額騰落率は△6.7%となり、参考指数である合成指数（JPMorgan EMBI Global Diversified（円換算ベース）50%、Barclays Capital US High Yield 2% Issuer Cap（円換算ベース）50%）の騰落率△4.7%を下回る結果となりました。

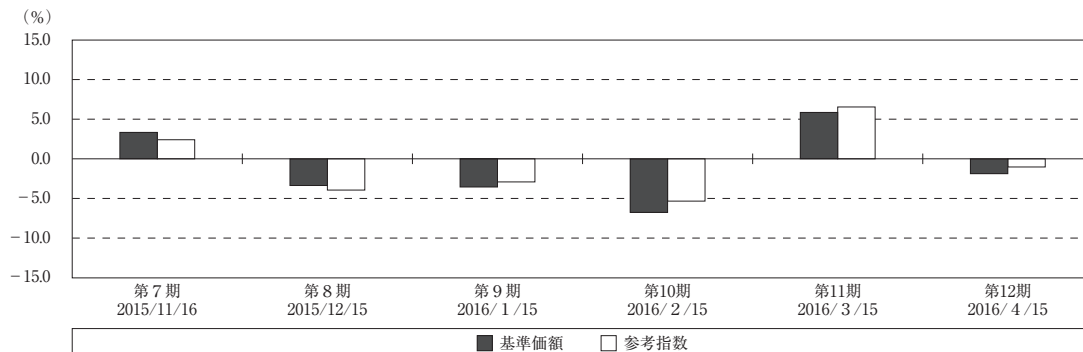
### [プラス要因]

- ・ハイ・イールド債券において、エネルギーセクターやメディアセクターの個別銘柄選択がプラスに寄与しました。

### [マイナス要因]

- ・ハイ・イールド債券において相対的にパフォーマンスが軟調だったエネルギーセクターを参考指数と比較して実質的に若干高めの組み入れとしていたことがマイナスに影響しました。
- ・新興国公社債においてブラジルの個別銘柄選択がマイナスに影響しました。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 参考指数は、合成指数（JPMorgan EMBI Global Diversified（円換算ベース）50%、Barclays Capital US High Yield 2% Issuer Cap（円換算ベース）50%）です。参考指数の詳細は22ページをご参照ください。

## 分配金

(2015年10月16日～2016年4月15日)

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向および残存信託期間などを勘案し、第7期は見送り、第8期から第12期までは1万口当たり100円（すべて税込み）とさせていただきます。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期
	2015年10月16日～ 2015年11月16日	2015年11月17日～ 2015年12月15日	2015年12月16日～ 2016年1月15日	2016年1月16日～ 2016年2月15日	2016年2月16日～ 2016年3月15日	2016年3月16日～ 2016年4月15日
当期分配金	—	100	100	100	100	100
(対基準価額比率)	—%	1.060%	1.110%	1.204%	1.152%	1.187%
当期の収益	—	100	—	—	—	—
当期の収益以外	—	—	100	100	100	100
翌期繰越分配対象額	9,573	9,754	9,654	9,554	9,454	9,354

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

マザーファンドを高位に組み入れ、世界のハイ・イールド債券および新興国公社債に実質的に投資します。残余部分はマネープール・ファンドを組み入れ、安定した収益の確保を図ります。実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わない方針です。

マザーファンドでは、主としてアイルランド籍外国投資信託インベスコ・グローバル・ハイ・インカム・ファンド クラスC-SD投資信託証券（米ドル建て）に投資を行います。同外国投資信託では、世界のハイ・イールド債券および新興国公社債に投資を行い、トップダウンとボトムアップを融合したアクティブ運用により、高水準のインカムゲインの確保に加え、キャピタルゲインの獲得を目指します。具体的には、高水準のインカムゲインの確保とキャピタルゲインの獲得により、中長期で安定した収益獲得に努めていきます。流動性を重視しながら組入銘柄の見直しを行い、短期的な調整局面では、割安な優良銘柄を厳選し、投資します。信用格付別では、B B B格からB格中心の運用を継続します。業種別では、信用スプレッドの拡大・縮小の局面に応じて、より大きなメリットを受けるセクターを見極め、配分を決定していきます。

マネープール・ファンドでは、円貨建ての短期公社債および短期金融商品を中心に運用を行います。

## お知らせ

該当事項はございません。

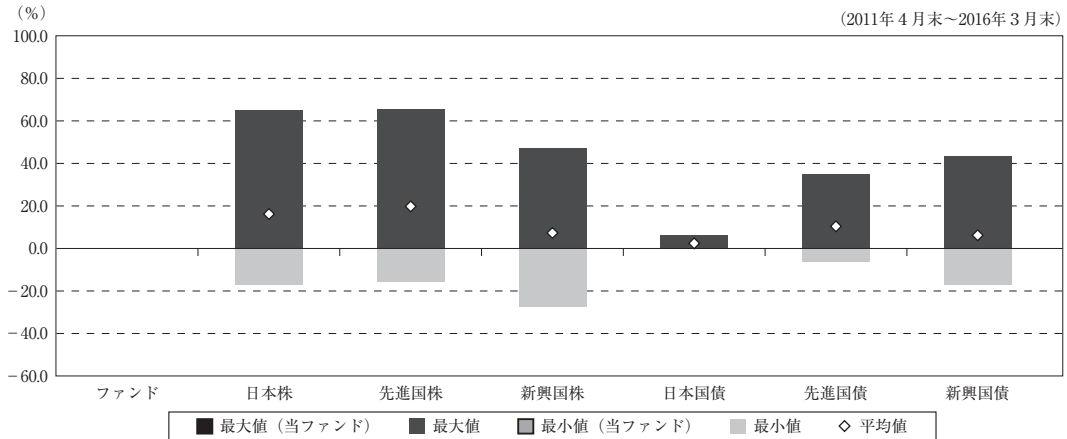
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	2025年4月15日まで	
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として世界の先進国および新興国の公社債等を実質的に投資することにより、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目標として運用を行います。	
主要投資対象	インベスコ 世界高利回り債券 ファンド<為替ヘッジなし> (毎月決算型)	「インベスコ 世界高利回り債券 マザーファンド」および「インベスコ マネーブル・ファンド (適格機関投資家私募投信)」を主要投資対象とします。
	インベスコ 世界高利回り債券 マザーファンド	別に定める投資信託証券 <sup>※</sup> へ投資し、主として世界の先進国および新興国の公社債等 に実質的に投資します。 ※別に定める投資信託証券とは、アイルランド籍外国投資信託インベスコ・グローバル・ハイ・ インカム・ファンド クラスC-SD投資信託証券 (米ドル建て) です。
	インベスコ マネーブル・ファンド (適格機関投資家私募投信)	主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資します。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主として世界の先進国および新興国の公社債等 (国際機関債を含みます。) に実質的に投資します。</li> <li>・トップダウンとボトムアップを融合したアクティブ運用を行い、高水準のインカムゲインの確保に加え、キャピタルゲインの獲得を目指します。</li> <li>・実質外貨建資産について、原則として、対円での為替ヘッジを行いません。</li> </ul>	
分配方針	原則として毎月の決算時 (毎月15日、該当日が休業日の場合は翌営業日) に委託会社が、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合があります。	



(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	—	16.2	19.8	7.3	2.4	10.4	6.2
最大値	—	65.0	65.7	47.4	6.1	34.9	43.7
最小値	—	-17.0	-15.6	-27.4	0.4	-6.3	-17.4

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年4月から2016年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。なお、当ファンドの騰落率につきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P22の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

### 組入資産の内容

(2016年4月15日現在)

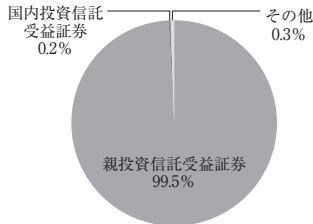
#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第12期末
	%
インベスコ 世界高利回り債券 マザーファンド	99.5
インベスコ マネープール・ファンド (適格機関投資家私募投信)	0.2
組入銘柄数	2銘柄

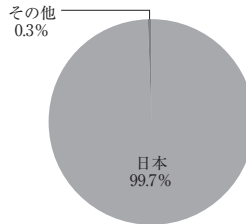
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

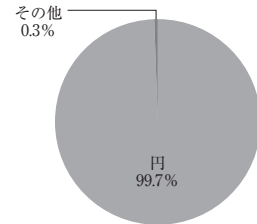
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

### 純資産等

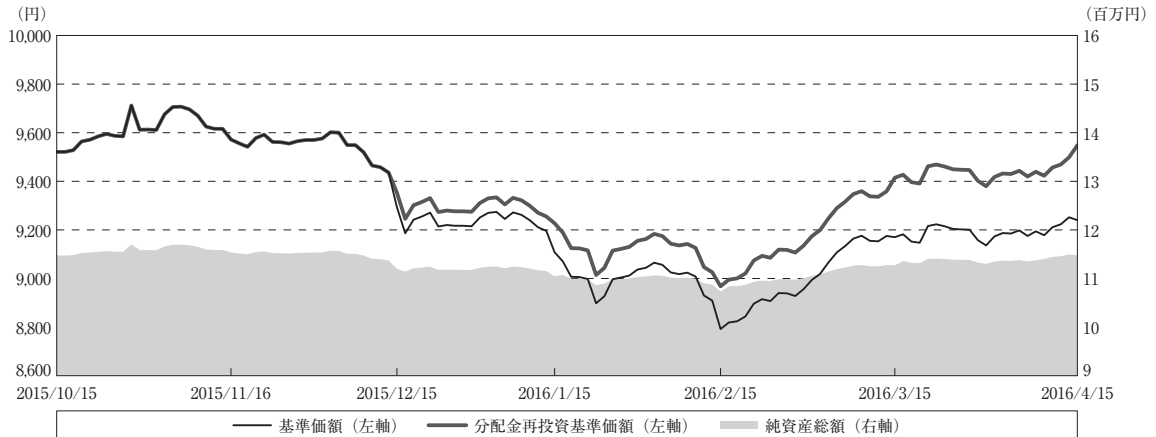
項目	第7期末	第8期末	第9期末	第10期末	第11期末	第12期末
	2015年11月16日	2015年12月15日	2016年1月15日	2016年2月15日	2016年3月15日	2016年4月15日
純資産総額	23,489,240円	22,458,290円	21,647,413円	20,175,904円	21,367,531円	20,958,814円
受益権総口数	24,050,000口	24,050,000口	24,307,550口	24,591,660口	24,891,277口	25,181,120口
1万円当たり基準価額	9,767円	9,338円	8,906円	8,204円	8,584円	8,323円

\*作成期間(第7期~第12期)中における追加設定元本額は1,131,120円、同解約元本額は0円です。

## 運用経過

## 作成期間中の基準価額等の推移

(2015年10月16日～2016年4月15日)



第7期首：9,521円

第12期末：9,240円 (既払分配金 (税込み)：300円)

騰落率：0.3% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首 (2015年10月15日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

## [上昇要因]

- ・世界のハイ・イールド債券および新興国公社債を実質的な投資対象としているため、トップダウンとボトムアップを融合したアクティブ運用を行った結果、実質的に保有する債券の一部の銘柄の価格が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。
- ・実質的に保有する債券からの高水準のインカムゲイン (利息収入) が、基準価額の上昇要因となりました。

## [下落要因]

- ・世界のハイ・イールド債券および新興国公社債を実質的な投資対象としているため、原油価格の下落、中国の景気減速懸念などを背景に投資家のリスク回避姿勢の強まり、ハイ・イールド債券と新興国公社債のスプレッドが拡大し、債券価格が下落したことが基準価額の下落要因となりました。
- ・実質外貨建資産について対円での為替ヘッジを行ったため、米ドルと円の金利差によるヘッジコストが、基準価額の下落要因となりました。

## 1万口当たりの費用明細

(2015年10月16日～2016年4月15日)

項 目	第7期～第12期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 ( 投 信 会 社 ) ( 販 売 会 社 ) ( 受 託 会 社 )	円 42 ( 3 ) (38) ( 2 )	% 0.448 (0.027) (0.405) (0.016)	(a) 信託報酬=作成期間の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、 法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种資料の送付、口 座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の 実行等の対価
(b) そ の 他 費 用 ( 監 査 費 用 ) ( 印 刷 費 用 )	5 ( 4 ) ( 1 )	0.053 (0.042) (0.011)	(b) その他費用=作成期間のその他費用÷作成期間の 平均受益権口数 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る 費用 印刷費用は、目論見書や運用報告書等の法定書類の作 成・印刷に要する費用等
合 計	47	0.501	
作成期間の平均基準価額は、9,260円です。			

(注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券(親投資信託を除く)が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2011年4月15日～2016年4月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2015年5月1日です。

	2015年5月1日 設定日	2016年4月15日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,240
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	300
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△4.5
参考指数騰落率 (%)	—	△0.2
純資産総額 (百万円)	12	11

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 設定日の基準価額は、設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 参考指数は、合成指数 (JPMorgan EMBI Global Diversified (円ヘッジ・ベース) 50%、Barclays Capital US High Yield 2% Issuer Cap (円ヘッジ・ベース) 50%) です。参考指数の詳細は22ページをご参照ください。
- (注) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しているものです。

## 投資環境

(2015年10月16日～2016年4月15日)

ハイ・イールド債券 (Barclays US Corporate High Yield 2% Issuer Capped Bond Index (米ドルベース))	+1.3%
新興国公社債 (J.P. Morgan EMBI Global Diversified (米ドルベース))	+5.1%
米ドル/円 109円74銭 (前作成期末 118円99銭)	

※ハイ・イールド債券および新興国公社債の騰落率は当作成期末時点 (対前作成期末比)、米ドル/円は当作成期末の数値です。

## &lt;債券市場&gt;

当作成期間中、米国10年国債利回りは低下 (債券価格は上昇) しました。2015年12月までは、①株式市場の落ち着き、②ドラギ欧州中央銀行 (ECB) 総裁による追加緩和を示唆する発言、③米経済指標の改善、④米連邦公開市場委員会 (FOMC) における0.25%の利上げなどを背景に、米国10年国債利回りは上昇 (債券価格は下落) しました。その後は中国経済成長減速懸念の再燃や原油価格の下落を背景に市場心理は悪化し、クレジット市場全般に下落基調となりました。リスク回避姿勢が広がる中、「質への逃避」が加速し、米国10年国債利回りは低下しました。2016年2月中旬から①原油価格の反転、②中国の人民元安防衛に対する姿勢が再確認されたこと、③世界的に欧州の銀行債務に関する不安が払しょくされたこと、④良好な米国経済指標が発表されたこと一などから、低下基調だった米国10年国債利回りは安定し、クレジット市場は全般的に上昇しました。

## &lt;為替市場&gt;

当作成期間中、米ドルは対円で下落しました。作成期初は米経済指標の改善や政策金利の引き上げ期待もあり、米ドルは対円で上昇しました。その後は世界的な経済成長懸念、株価の下落、原油価格の下落を背景にリスク回避的な動きが加速、安全資産とされる円が買われたことにより円高/米ドル安に転じました。2016年1月末には日本銀行によるマイナス金利導入もあり円安/米ドル高に反転する時期もありましたが、3月のFOMCにおいて2016年の利上げペースを年4回から年2回に下方修正したことなどを受け、米ドルは再び対円で下落して作成期末を迎えました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2015年10月16日～2016年4月15日)

インベスコ 世界高利回り債券 マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）を高位に組み入れ、世界のハイ・イールド債券および新興国公社債に実質的に投資しました。残余部分はインベスコマネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）（以下、マネープール・ファンドといいます。）を組み入れ、安定した収益の確保を図りました。また、実質外貨建資産については、対円で為替ヘッジを行うことにより、為替変動リスクの低減を図りました。

マザーファンドでは、主としてアイルランド籍外国投資信託インベスコ・グローバル・ハイ・インカム・ファンド クラスC-SD投資信託証券（米ドル建て）に投資を行いました。同外国投資信託では、主として、世界のハイ・イールド債券および新興国公社債に投資を行い、トップダウンとボトムアップを融合したアクティブ運用により、高水準のインカムゲインの確保に加え、キャピタルゲインの獲得を目指しました。具体的には、先進国社債の組入比率を高位としました。信用格付けにおいてはBBB格、BB格、B格に幅広く投資しました。国別配分では、米国、ブラジルの組み入れを高位としました。

マネープール・ファンドでは、資産規模などを勘案し、短期金融商品による運用を行いました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2015年10月16日～2016年4月15日)

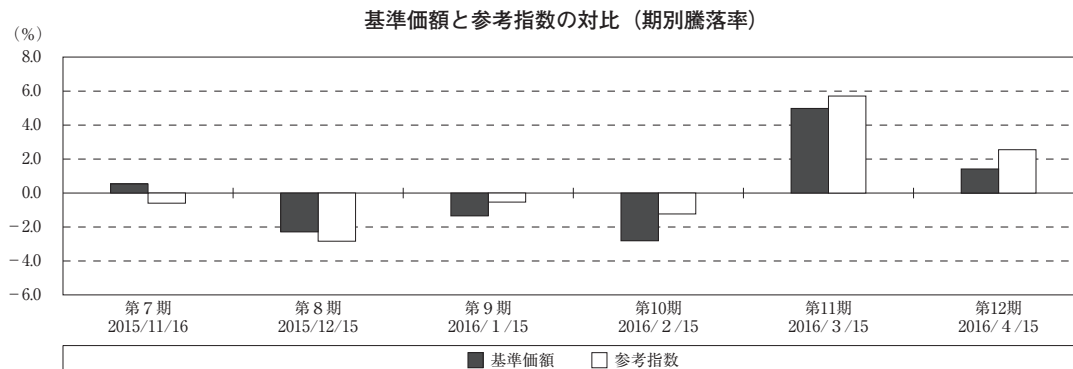
当作成期の分配金再投資基準価額騰落率は+0.3%となり、参考指数である合成指数（JPMorgan EMBI Global Diversified（円ヘッジ・ベース）50%、Barclays Capital US High Yield 2% Issuer Cap（円ヘッジ・ベース）50%）の騰落率+2.9%を下回る結果となりました。

### 【プラス要因】

- ・ハイ・イールド債券において、エネルギーセクターやメディアセクターの個別銘柄選択がプラスに寄与しました。

### 【マイナス要因】

- ・ハイ・イールド債券において相対的にパフォーマンスが軟調だったエネルギーセクターを参考指数と比較して実質的に若干高めの組み入れとしていたことがマイナスに影響しました。
- ・新興国公社債においてブラジルの個別銘柄選択がマイナスに影響しました。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 参考指数は、合成指数（JPMorgan EMBI Global Diversified（円ヘッジ・ベース）50%、Barclays Capital US High Yield 2% Issuer Cap（円ヘッジ・ベース）50%）です。参考指数の詳細は22ページをご参照ください。

## 分配金

(2015年10月16日～2016年4月15日)

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向および残存信託期間などを勘案し、第7期は見送り、第8期から第12期までは1万口当たり60円（すべて税込み）とさせていただきます。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期
	2015年10月16日～ 2015年11月16日	2015年11月17日～ 2015年12月15日	2015年12月16日～ 2016年1月15日	2016年1月16日～ 2016年2月15日	2016年2月16日～ 2016年3月15日	2016年3月16日～ 2016年4月15日
当期分配金	—	60	60	60	60	60
(対基準価額比率)	—%	0.642%	0.654%	0.678%	0.650%	0.645%
当期の収益	—	60	—	—	—	—
当期の収益以外	—	—	60	60	60	60
翌期繰越分配対象額	9,543	9,756	9,696	9,636	9,576	9,516

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

マザーファンドを高位に組み入れ、世界のハイ・イールド債券および新興国公社債に実質的に投資します。残余部分はマネープール・ファンドを組み入れ、安定した収益の確保を図ります。実質外貨建資産については、原則として対円が為替ヘッジを行うことにより、為替変動リスクの低減を図ります。

マザーファンドでは、主としてアイルランド籍外国投資信託インベスコ・グローバル・ハイ・インカム・ファンド クラスC-SD投資信託証券（米ドル建て）に投資を行います。同外国投資信託では、世界のハイ・イールド債券および新興国公社債に投資を行い、トップダウンとボトムアップを融合したアクティブ運用により、高水準のインカムゲインの確保に加え、キャピタルゲインの獲得を目指します。具体的には、高水準のインカムゲインの確保とキャピタルゲインの獲得により、中長期で安定した収益獲得に努めていきます。流動性を重視しながら組入銘柄の見直しを行い、短期的な調整局面では、割安な優良銘柄を厳選し、投資します。信用格付別では、B B B格からB格中心の運用を継続します。業種別では、信用スプレッドの拡大・縮小の局面に応じて、より大きなメリットを受けるセクターを見極め、配分を決定していきます。

マネープール・ファンドでは、円貨建ての短期公社債および短期金融商品を中心に運用を行います。



## お知らせ

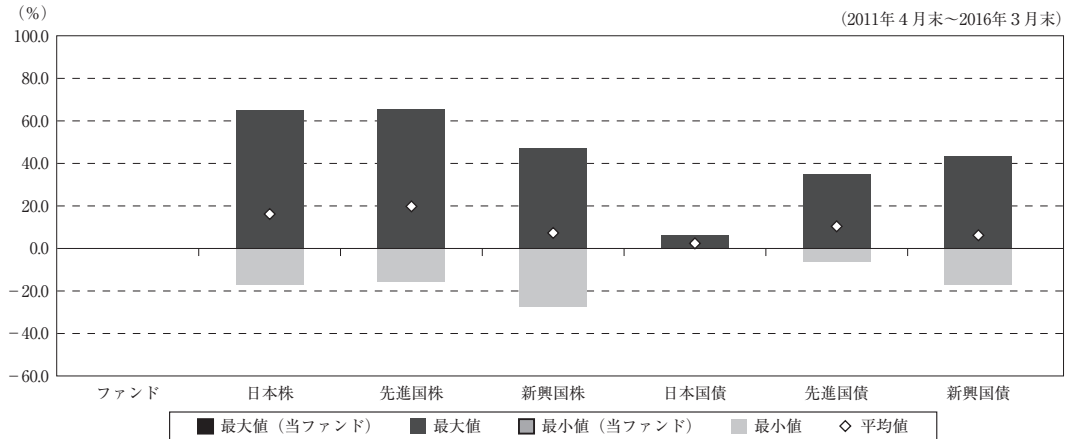
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	2025年4月15日まで	
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として世界の先進国および新興国の公社債等を実質的に投資することにより、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目標として運用を行います。	
主要投資対象	インベスコ 世界高利回り債券ファンド<為替ヘッジあり> (毎月決算型)	「インベスコ 世界高利回り債券 マザーファンド」および「インベスコ マネープール・ファンド (適格機関投資家私募投信)」を主要投資対象とします。
	インベスコ 世界高利回り債券マザーファンド	別に定める投資信託証券 <sup>※</sup> へ投資し、主として世界の先進国および新興国の公社債等を実質的に投資します。 ※別に定める投資信託証券とは、アイルランド籍外国投資信託インベスコ・グローバル・ハイ・インカム・ファンド クラスC-SD投資信託証券 (米ドル建て) です。
	インベスコ マネープール・ファンド (適格機関投資家私募投信)	主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資します。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主として世界の先進国および新興国の公社債等 (国際機関債を含みます。) に実質的に投資します。</li> <li>・トップダウンとボトムアップを融合したアクティブ運用を行い、高水準のインカムゲインの確保に加え、キャピタルゲインの獲得を目指します。</li> <li>・実質外貨建資産について、原則として、対円での為替ヘッジを行うことにより、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。</li> </ul>	
分配方針	原則として毎月の決算時 (毎月15日、該当日が休業日の場合は翌営業日) に委託会社が、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	—	16.2	19.8	7.3	2.4	10.4	6.2
最大値	—	65.0	65.7	47.4	6.1	34.9	43.7
最小値	—	-17.0	-15.6	-27.4	0.4	-6.3	-17.4

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年4月から2016年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。なお、当ファンドの騰落率につきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P22の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

### 組入資産の内容

(2016年4月15日現在)

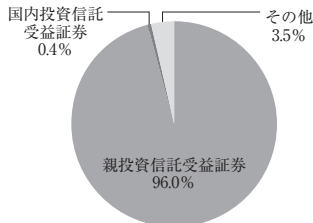
#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第12期末
	%
インベスコ 世界高利回り債券 マザーファンド	96.0
インベスコ マネーブール・ファンド (適格機関投資家私募投信)	0.4
組入銘柄数	2銘柄

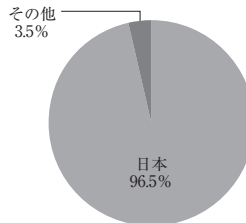
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

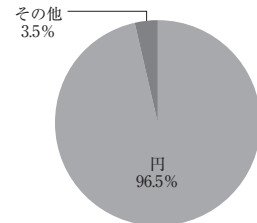
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

### 純資産等

項目	第7期末	第8期末	第9期末	第10期末	第11期末	第12期末
	2015年11月16日	2015年12月15日	2016年1月15日	2016年2月15日	2016年3月15日	2016年4月15日
純資産総額	11,534,657円	11,197,717円	11,045,661円	10,732,686円	11,270,759円	11,479,285円
受益権総口数	12,050,000口	12,050,000口	12,127,801口	12,207,695口	12,291,005口	12,424,104口
1万円当たり基準価額	9,572円	9,293円	9,108円	8,792円	9,170円	9,240円

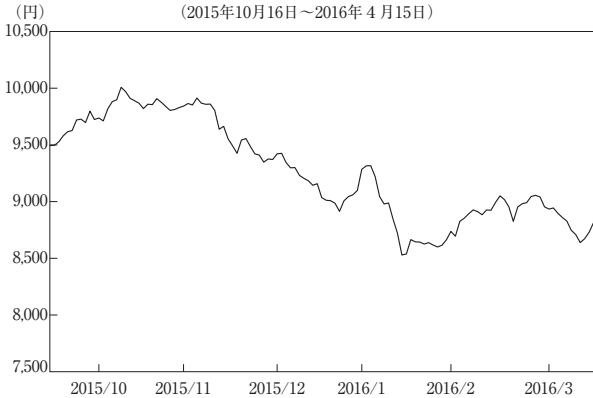
\*作成期間(第7期~第12期)中における追加設定元本額は374,104円、同解約元本額は0円です。

## 組入上位ファンドの概要

### インベスコ 世界高利回り債券 マザーファンド

#### 【基準価額の推移】

(2015年10月16日～2016年4月15日)



#### 【1万口当たりの費用明細】

(2015年10月16日～2016年4月15日)

該当事項はございません。

#### 【組入上位ファンド】

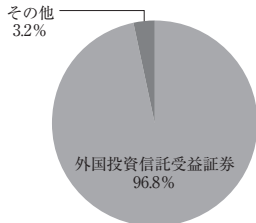
(2016年4月15日現在)

銘柄名	第2期末
インベスコ・グローバル・ハイ・インカム・ファンド クラスC-SD	96.8%
組入銘柄数	1銘柄

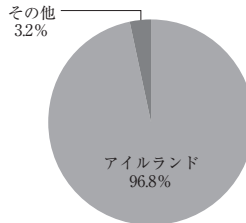
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

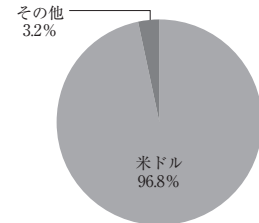
#### 【資産別配分】



#### 【国別配分】



#### 【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

————— (参考情報) アイルランド籍外国投資信託  
インベスコ・グローバル・ハイ・インカム・ファンド —————

「インベスコ 世界高利回り債券 マザーファンド」が主要投資対象としている「インベスコ・グローバル・ハイ・インカム・ファンド」の直近の情報は以下の通りです。

【組入上位10銘柄】

(2015年11月30日現在)

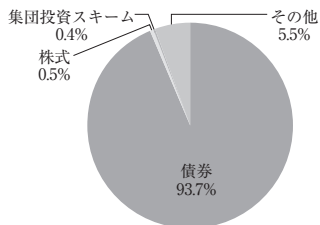
	銘柄名	種別	国	比率 %
1	Argentina Bonar Bonds 7% USD 17/04/2017	債券	アルゼンチン	1.3
2	Altice Luxembourg SA 7.75% USD 15/05/2022	債券	ルクセンブルグ	0.9
3	Tenet Healthcare Corp 8.125% USD 01/04/2022	債券	アメリカ	0.9
4	DISH DBS Corp 5.875% USD 15/11/2024	債券	アメリカ	0.8
5	1011778 BC ULC / New Red Finance Inc 6% USD 01/04/2022	債券	カナダ	0.8
6	Ally Financial Inc 4.625% USD 30/03/2025	債券	アメリカ	0.8
7	Valeant Pharmaceuticals International Inc 6.125% USD 15/04/2025	債券	カナダ	0.7
8	Pertamina Persero PT 4.875% USD 03/05/2022	債券	インドネシア	0.7
9	Aircastle Ltd 5.5% USD 15/02/2022	債券	バミューダ	0.7
10	Alphabet Holding Co Inc 7.75% USD 01/11/2017	債券	アメリカ	0.7
	組入銘柄数		370銘柄	

\*2015年11月30日現在の利率

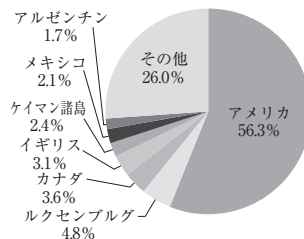
(注) 比率は純資産に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

必要な情報が開示されておりません。

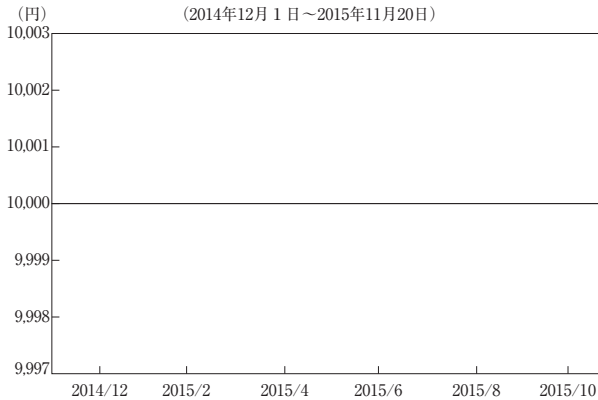
(注) 比率は純資産に対する割合です。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

## インベスコ マネープール・ファンド (適格機関投資家私募投信)

### 【基準価額の推移】

(2014年12月1日～2015年11月20日)



### 【1万口当たりの費用明細】

(2014年12月1日～2015年11月20日)

該当事項はございません。

### 組入資産の内容

(2015年11月20日現在)

2015年11月20日現在、有価証券等の組み入れはございません。

## <当ファンドの参考指数について>

### <為替ヘッジなし> (毎月決算型)

当ファンドはベンチマークを定めていないため、参考指数として合成指数 (JPMorgan EMBI Global Diversified (円換算ベース) の騰落率、Barclays Capital US High Yield 2% Issuer Cap (円換算ベース) の騰落率を、それぞれ50%の配分で合成した指数) を掲載しています。各指数は、基準日前営業日のJPMorgan EMBI Global Diversified (米ドル・ベース) およびBarclays Capital US High Yield 2% Issuer Cap (米ドル・ベース) に、基準日当日の米ドル為替レート (対顧客電信売買相場仲値) を用いて円換算しています。また当該参考指数は、設定日 (2015年5月1日) を10,000として、当社で独自に指数化したものです。

### <為替ヘッジあり> (毎月決算型)

当ファンドはベンチマークを定めていないため、参考指数として合成指数 (JPMorgan EMBI Global Diversified (円ヘッジ・ベース) の騰落率、Barclays Capital US High Yield 2% Issuer Cap (円ヘッジ・ベース) の騰落率を、それぞれ50%の配分で合成した指数) を掲載しています。当該参考指数は、基準日前営業日の合成指数を用い、設定日 (2015年5月1日) を10,000として、当社で独自に指数化したものです。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

### ○TOPIX (東証株価指数) (配当込み)

TOPIXは、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄の株価を対象として算出した指数です。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

### ○MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。なお、円ベース指数については、委託会社がMSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、米ドルベース) に、当日の米ドル為替レート (WM/ロイター値) を乗じて算出しています。

### ○NOMURA - BPI国債

NOMURA - BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

### ○シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、Citigroup Index LLCが開発した日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数で、著作権、商標権、知的財産権、その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

### ○JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイドは、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。円ベース指数については、委託会社がJPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド (米ドルベース) に、当日の米ドル為替レート (WM/ロイター値) を乗じて算出しています。本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.